

令和8年度第1回 名張市地域公共交通会議

【議事概要】

日時：令和8年6月10日（水）

午前10時00分～午後12時30分

場所：ベルウイング武道交流館 多目的ホール

出席者：（敬称略）

（1）委員

澤田 恭子 （市民公募）

古谷 久人 （地域づくり代表者会議会長）

岡田 美佐子 （名張市老人クラブ連合会女性部副会長）

山根 秀生 （名張市身体障害者互助会事務局長）

中平 恭之 （近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科教授）

樋口 恵一 （大同大学准教授）

姫子松 伸浩 （近畿日本鉄道名張駅駅長）

川北 幸宏 （三重交通株式会社伊賀営業所所長）

前田 敦志 （一般社団法人三重県タクシー協会伊賀支部 支部長）

豊永 育子 （公益社団法人三重県バス協会）

沢西 芳円 （伊賀建設事務所副所長）

野村 和之 （名張警察署交通課課長）

森 慶之 （国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）

柴原 健佑 （【代理出席】三重県地域連携・交通部交通政策課係主任）

伊集院 時仁 （名張市都市整備部部長）

野口 泰弘 （名張市地域環境部部長）

出江 良隆 （名張市副市長）

（2）オブザーバー

小倉 宏基 （三重交通株式会社伊賀営業所総務係長兼営業係長）

金森 國康 （名張市医療福祉総務室室長）

（3）事務局

都市整備部 都市計画室 4名

会議の公開・非公開：公開

傍聴人：1名

1 開会

2 会長あいさつ

皆様、お忙しいところ本年度第1回目の名張市地域公共交通会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。

名張市副市長の出江でございます。

皆さま方におかれましては、日頃から、市政全般に格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

また、本市の公共交通政策にご理解とご協力を賜わり、それぞれのお立場でご尽力をいただいておりますことにつきましても、重ねてお礼申し上げます。

本日は、本年度最初の公共交通会議でございまして、昨年度の事業実施報告と本年度の事業計画案についてのご審議が主な議題でございます。

昨年度事業において実証運行をおこなっていただきました薦原地域のコモコモ号の再編、ライドシェア事業につきましては、本年度より本格運行に入っていただきました。改めまして薦原地域の皆さま方と運営委員会の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

また、この薦原地域の取組を参考としながら、その他の地域コミバスの運営委員会におかれても、運行の再編、見直しに向けて検討を進めていただいているということも聞かせていただいておりますので、地域のみならず、本日お集まりの皆さま方のご協力も賜わりたく存じます。

さらに今年度は「地域で支えるコミュニティ人材育成事業」で取組んだ「交通の福祉の連携」を基礎として、新たな取組も行いながら、各地域コミバスの再編検討を進め、現状の交通体系の適正化を図り、持続可能な公共交通の確保を進めていきたいと考えております。

人口減少、高齢化の影響で利用者は減少し、運行事業者様には燃料高騰や人材確保の問題、利用者様には運賃の値上げや便数減少の問題等、多くの課題が顕在化しております。どのように本市の個性を活かしながら持続可能な移動確保ができるのかにつきまして、本日も委員の皆さまの忌憚のないご意見を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、会議開催にあたりましての私からのご挨拶とさせていただきます。

3 活発で良い議論ができる会議のために

【三重運輸支局より資料に基づいて説明】

4 議事

【事務局より資料に基づいて説明】

【協議案件】

(1) 令和7年度事業報告及び収支決算について (資料1-1 ～ 1-3) ※資料1-1 説明省略

委員：今回から初めて参加し、昨年の事業報告を聞いてすごく色々されていてたいへん感心している。

特に気になったのは、バスの乗り方教室について小学校でやっていると思うが反響やまたこういったイベント予定についてあるか聞きたい。

自身も小学生の時に初めてバスに乗った際は、とても緊張した。また、最近はICカードなども普及してきて複雑になってきていることもある。

子ども達が利用しやすいようにどんどんこういったイベントも行ってもらいたい。

→バスの乗り方教室については、資料のとおりすずらん台小学校と蔵持小学校で実施をした。

また、資料にはないがつつじが丘小学校では、交通安全教室とセットでバスの乗車体験を地域が主体となって実施した事例もある。

また、仰ってもらったICカードの使い方など慣れない部分もあるので、まず授業でICカードの使い方などの説明をしてから実際にバスに乗ってみるといったことをしている。

実際に、動いているバスに乗って、三重交通の車庫に行かせてもらうなどした。

観光バスには乗ったことはあるが、路線バスには初めてといった子どもが沢山いるのですごく楽しそうに体験をしてもらっていると思う。

今年度は、薦原小学校でバスの乗り方教室を実施予定です。これまでは地域主体でやっていたが、コモコモ号が路線再編によりそのバスに乗る機会が少し減ってしまったので三重交通に協力してもらい乗り方教室を継続していくことになった。

また、どんどんこういった取組を広げていけたらと事務局の方でも思っている。

委員：赤目滝のパークアンドライドについて、今年度も実施するのか。

→資料にもあるとおり、赤目四十八滝は観光シーズンになると駐車場が混雑するため

二次輸送という形で中継点を作り名張の湯や名張駅、市役所にまず来てもらいそこからシャトルバスで送迎するというのを昨年度はゴールデンウィークや秋の行楽シーズンなどに3回実施をした。

最終的に、二過年度実施をしてバスを借りる経費と、警備の経費や渋滞が発生することによってどれぐらいの観光客を逸しているのかなどそのあたりを比較して今年度は継続しないとなった。理由としては、経費の部分もだが特に悪天候の時には渋滞が発生しない。実際にゴールデンウィークも混雑すると予想していたが雨や雨予報になるだけで観光客が来ないという状況になった。昨年度も実際に実施したのは1回だけであり、総合的な判断で観光担当部局の方では今年度は実施せずにやっていくことになった。

また、赤目滝を管理している保勝会の方でマイクロバスを持っているため緊急時にはそういった車両で対応することになった。

委員：現状実施してみて、中々効果が得られなかったので一旦元に戻してみるということでその上で何か課題が出てきたら観光協会と協力して取組むといった方向性で認識した。

【承認】

(2) 事業進捗管理・評価について (資料2-1 ～ 2-5) ※資料2-3、2-4説明省略

委員：資料2-2【目標指標④】について、計画終了年度に調査を行っていると言期計画に結果を反映するには遅いのではないかと。
これを来年度に前倒して行うというのは難しいのか。

→計画終了年度である令和10年度に調査予定と書いてあるが、実際は令和10年度は分析となります。
調査については、来年度に実施を行い次期計画の策定に反映させる。

【ナッキー号】

委員：事業評価シートの協議会の質問・意見のところで、セーフティパスとの関連について意見がとてもいい議論をしているなど感心している。
ナッキー号は、市の中心市街地を循環するという特性、一方で三重交通のバスは市内の色々な地域を都心に向かわせるといったそれぞれに役割がある。
郊外から中心市街地にきて循環するという一連の流れが、セーフティパスによって補完

されると非常に利便性が上がって良いと思う。三重交通の路線の維持にも役立てるいい取組なので実施に向けた協議をしてほしい。

また、利用促進として無料乗車キャンペーン等で増えた利用者をどう定着させるかの利用促進が鍵だと思っている。そういったなかで「マイ時刻表」をそういった層へ接続できているか、継続的な利用に繋がるフォローができているか確認したい。

→セーフティパスについて、今年度免許返納の施策と一緒に考えていきたい。

また、無料乗車キャンペーン等で増加した方に対して何らかのアプローチ、「マイ時刻表」を活用できるようになっているかなどについてはご意見ありがとうございます。

今年度、市の「出前トーク」に「マイ時刻表」の設定を行っている。地域へ出向いてその地域から行きたい所までどうやっていけるかといった教室を実施しようと思っている。

そういった方々にアプローチすることによって、ナッキー号から路線バスへの接続も増えてきたら良いと考えている。

直接、無料乗車キャンペーンの利用者へのアプローチはしていないがそれぞれの地域へのアプローチはしたいと考えている。

委員：ナッキー号の沿線地域の方々も無料乗車キャンペーンを利用して良かったという人は一定数いると思う。そういった方々へのマイ時刻表の取組みは大事だと思う。

色々なことをしていて感心している。一個一個をどう連携させるのか工夫しながら進めてほしい。

座長：利用者数が増えていることはいいが、年々収支率の悪化が少し気になっている。

運行経費も社会情勢を見ていると、値上がりして行かざるを得ないと思う。

どのあたりまでの収支率であれば、今の運行を続けるのかというところもすぐには答えでないが考えていかなければならないと思う。

また、無料キャンペーンもいつまで続けて、その定着をどう促して効果があるかできるだけ早く確認しないといけなかなと思う。

今のところ、収支率の目安などはあるのか。

→収支率については、19%を標準ラインとして意識していきたい。

今年、200円へ値上げ後どういった収支バランスになっていくのか分析して検討していきたい。

委員：収支率について、広告料ではなくバスの運行のための協力金として協賛金は収支率に入ってくるのか。別の考えていくのか。

→資料の運行データ記載のある収支率については、運賃収入と運行経費から算出したものとなっており協賛金は入っていない。

協賛金は、運行経費に充当しているものなので、こちらに入れた中で決算していきたい。

委員：協賛金が増えていけば、収支率が上がっていくのではないかと思った。

座長：率としては、両方出してもいいのではないと思う。

二つ掲載することも検討してもらえればいいと思う。

【あららぎ号】

委員：あららぎ号の自家用有償旅客運送の登録期間の有効期限が9月30日までとなっている。運行継続の必要性についてこちらの協議会で協議・承認があるので忘れずに協議をしてください。

座長：路線が複雑で市街地は走っている路線がない。

1便あたり利用者数が少ないのは仕方ないと思うが0.7人は、少なすぎる。効率性を考えていかないといけない。今後、持続できない路線になってしまう。もう少しペースをあげて早く考えていかないと、いざ立ち行かなくなってから変更しようとしては遅いので、どこかで思い切ったことが必要なのかと思う。前々から思っているなので、引き続き検討してほしい。

【ほっとバス錦】

委員：地域づくりの方からの補助金も増加している。

バスの運行によって、地域づくりの財源が圧迫されていくという心配をしている。

ほっとバス錦の令和6年度で見ると運行経費は495万円、収入合計が493万円となっているがこの差をどこで埋めているのか。

→差につきましては、基本的に運行協議会の余剰金というか繰越金で補填している。

委員：ある程度、繰越金がありそれで乗り切っているということかなと思う。

あと、運行データの中で補助金に地域づくり協議会からの補助金額とあるがこの補助金を出すルール等はあるのか。

一番心配をしているのは、赤字が出たら地域づくり組織が補填しないといけないスキーム作りになっているのか。

→基本的には、運行協議会の自主努力、運賃収入をしっかり取りそこで利用促進をしてもらう部分がある。

そこで足りない部分については、企業協賛等などでしっかり財源を確保してもらう。

運行データでこの協賛金については、0円となっているが錦生地域については、地域づくり協議会の方で協賛金の受け入れをしているため。

地域からの補助金については、例えば令和6年度は24万円程が地域から出ている。

この財源は、元々協賛金の部分から出ていると見てもらえればと思う。

その協賛金から足りない分があれば、市からの補助金についても一定限度があるので残りの部分については地域で負担している。

委員：場合によっては、地域の負担が増える可能性があるところを覚悟しながら地域づくり組織の方も検討していると思う。

物価や人件費高騰でバスの運行も大変だと思うが、今後運行費の増加など早めに策を打たないといけないと地域づくり組織の財源も限られているので心配している。

収支率をみていると運賃の値上げだけでは対応できないことも考えられるので早めの議論をして抜本的なことも考える時期だと思う。

→財源としましては、実情交通事業者に努力という形であり運行経費を上げないようにしてもらっている。もちろんどうしても限界があるのは理解している。

そのあたりについては、薦原地域については、新たに路線再編をすることによって国の補助金が新たに得られるということで新しい財源を獲得することができている。

他の地域もこの国の補助金が使える条件で再編できるかといえばわからない部分がある。

そういった部分については、補助金等を現状に見合った内容で見直していかなければならないと考えている。

座長：交通事業者には、かなり努力してもらって運行している。

ほっとバス錦に限らず他の路線でも同様の状況。

そろそろ限界にきていると聞いているので、早急に検討しなければならない。

委員が言ったように抜本的に考えていかなければならない。

【コモコモらいど・コモコモ号】

座長：実際運行を開始して、住民意識がどうなっているかわかっていない。
そのあたり、調整が整えばアンケートなどして住民意識を把握したい。
また、それが実施できれば報告できたらと思う。
ライドシェアについては、当初の予定より利用が少ない。
そのあたりのところも利用の需要があるのかどうか、本当のところが見えてこない。
そのあたり何か探れればと思う。
今後、運行を継続していくにあたって需要というのは重要になってくるので
それがなくなるのであれば運行は適正ではない。前もって把握することが重要。

【みどり号】

座長：地域間の連携が大事になってくるのかなと思う。
今は、緑が丘地区だけで運行はしているがこのみどり号だけではなく他の路線もだが
効率性を考えて他地域との連携も検討していくことがとても重要だと思う。
このあたりについては、現状は中々難しいと思うが今後できる限り路線の再編につい
てそれを考えながら検討していく必要がある。
ただ、みどり号については、シンプルな路線でわかりやすいのでそこを崩すのはもった
いないとも思う。
地域間の連携については、実際に現状難しいのか。

→補助金の部分が1地域となっているため、地域間で連携した場合もまとめて1地域分となっ
てしまう。地域間の連携というのは、今後必要になってくるのでそういったところも踏まえて
見直しを本年度していきたいと思っている。

委員：みどり号の中学生利用免除分の負担について市との折半となっているが
そもそも中学生の乗車するにあたっての仕組み等について教えてほしい。

→中学生の通学に関する考え方については、教育委員会での取り決めがある。
何km以上離れているかなどがあり、その上で一定距離離れていれば自転車や路線バス
を利用してもらい補助を教育委員会を出していくという流れがある。
緑が丘は、基本的には自転車や徒歩で通学している。
公共交通を必ず利用しなければならないという制限をかけることはできない。
あくまで、選択ということで公共交通を中学生は選んで使えるという状況になっている。

免除については、障害者手帳をお持ちの方と同様の規定で免除をしている。

運賃が減った分に関しては、その半分を市が負担する制度が元々あるのでその制度に基づいて行っている。

委員：バスを通学で利用する場合は、半額または無料どちらなのか。

→名張市の場合、通学でバスを利用するのは地域が決められている。

指定の地域に居住している中学生がバスを通学に利用した場合、1ヶ月程は保護者が負担し残りの期間は教育委員会が負担している。

緑が丘については、これの対象外となっている。

基本的には、徒歩や自転車で通学となっているが公共交通のみどり号があるのでご家庭の判断で利用してもらうことが可能。

その際の運賃については、交通分野の方で地域と話をして地域が免除するという事であれば市は半額補填をするという考え方になっている。

委員：この制度は地域も負担するのか。

→中学生の利用については無料となっている。その運賃の欠損分については市が半分地域へ補助金として渡している。残りの半分については、地域が負担をしている。

委員：それは地域でも認識されているか。

→はい。障害者免除と同じ規定で免除規定の中の一つとして扱っている。

【はたっこ号】

委員：ナッキー号のダイヤ改正から乗継が悪くなった。以前から改善をお願いして2年程になる。私達、後期高齢者は今助けてほしい。

いつも検討していると言っているがどうなっているのか。

朝の1便でナッキー号と乗継できていたのができなくなったので大変不便。

実際、数字として利用者が200人減っている。たった、10分時間を変更するだけで上手く乗継ができるようになる。

それがなぜこんなに難しいことになっているのか。

→はたっこ号については、ナッキー号のダイヤ改正にともない一部接続ができないといったことが発生し利用者の減少に繋がっている要因となっていると感じている。

地域の方にも、利用者の方から要望書等貰っていることを伝えている。

運行経費の増加に伴う再編とともに利便性の向上も含めて再編を進めていきたいと思っている。今、1日8便というのはすごく沢山ある。そういったところについては縮小といったことが出てくるかもしれない。そのあたりは接続性を高めるといったことなどで利便性を上げていけよう再編を進めていきたい。

この夏に乗込み調査をさせてもらい、実際利用してもらっている方から聞き取りながら利用が少ないバス停に関して廃止していくことも検討していく。

検討ばかりで申し訳ないが、また報告できる時期になりましたら説明させていただく。

座長：委員より前から同じ指摘が出ているのは承知しているが、やはり地域の対応が遅いのではないかと思う。そのあたりは、何かしら検討してもらい明確な回答をする必要がある。それをするによって、住民の方々の理解も深まる。曖昧なまま、検討しますだけではいけない。そのあたりも指導してもらえればと思う。

委員：接続を良くするために、はたっこ号を単純に10分早めるだけではいけないのか。

→朝の10分早めたらというところもあるが、地域のオークワなどのスーパーへの乗入れについても往復利用ができないかなど再編については色々な課題がある。一つずつやっていくのではなく、抜本的にといった思いが地域にはある。少し対応が遅くなっていて申し訳ないが、そういったところや運行経費の問題など路線の減便や圧縮も含めて今進めている。接続性については、意識して考えてもらおうよう市からも働きかけていく。

委員：書いてある内容が、発展的な運営という解釈ができてにくい文面になっているのが気になる。地域の皆さんで運営されているところには敬意はしているしその中の運営に我々がどこまで口を出せるのかというのもあるが働きかけただと進まないのではないかという印象を持ってしまう。

そのあたり、市が支援するというか地域の将来を考えて公共交通を議論していくという認識を共有できているか。

働きかけだけでなく、中に入って一緒にできる仕組み、仕掛けは大事だと思う。

→実際に地域の会議と一緒に入っている。事務局を担っている担当の方とは密に連携を取っている。地域で取っているデータをお借りし、座長にも見ていただくなど本格的に今年は地域に入って再編を進めていく。

座長：バスの兆候データを貰っており、研究室の方で分析を進めている。
まもなくできる予定。

【承認】

(3) 令和8年度事業計画（案）及び収支予算（案）について （資料3-1 ～ 3-3）

委員：マイ時刻表の活用推進について、このマイ時刻表はどういったものか。
各地域コミュバスの運営主体、例えば「はたっこ号」など各地域コミュバスの中で
利用促進を活用できるようなパッケージになっているか。

→各地域コミュニティバスでは、まだこういった事業を一緒にしましょうといった周知はして
ないのでこれからしていきたいと思う。現在は、コミュニティバスが走っていない地域で
予定をしている。

委員：是非、地域コミュニティバスの中でも推進パッケージとして活用できれば利用促進
に繋がると思う。接続の話もマイ時刻表を見てみるとここの接続が大事だという
問題が明確になりやすいかと思う。

→補足ですが、現在マイ時刻表の普及については、介護予防事業の展開をしている事業者やまち
の保健室などに使い方などを説明している。そういった方々が、コーディネーターとなって
地域の方々へ説明をしていくという仕組みにならないか進めている。
地域コミュニティバスの方々への普及も同時並行で進めていきたいと思う。

【承認】

(4) 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る計画認定申請について （資料4）

座長：フィーダー補助金の申請書類の中身等については、三重運輸支局と連携して
進めてください。

【承認】

(5) ナッキー号運行協賛事業の拡大について (資料5-1 ~ 5-2)

座長：協賛金額新設ということで、今後広く周知を実施していく。
金額については、今後も継続して検討していく。
一旦、今年度についてはこの金額でやっていく。

【承認】

5 報告

【事務局より資料に基づいて説明】

【報告案件】

(1) 名張市妊産婦対象タクシー優先ライドシェア実証運行について (資料6-1 ~ 6-2)

委員：運送する範囲は、病院に行くだけではなく日頃の買い物等でも使えるということで
利用時間は24時間利用できるのか。

→現在の想定では、タクシーの運行時間である朝7時~夜12時ぐらいまでを考えている。
今後、タクシー事業者との協議の中でそのあたりは変更になる可能性はある。

6 その他

【特になし】

7 閉会

会長：皆さま、長時間にわたり協議の方ありがとうございました。

三重運輸支局からの会議のアドバイスもありがとうございました。

本日は、令和7年度の事業達成状況や評価についてなど報告があった。

その中でも、取組が進んでいるものも進んでいないものもあった。

そういった取組は、名張市が将来まちづくに向けて非常に重要なものだと思う。

市民の皆さまの移動手段確保する上でも極めて重要な問題であると思っている。

特に資料の市民の意識調査について、市内の交通環境について満足しているかの割合が36%というのはかなり低い数字かなと思っている。

その意味でも、皆さまからいただいたご意見を参考にさせていただきながら今後各取組を進め利用促進、利便性の向上に努め満足度が上がるようにしていきたい。

皆さまのお力添えを今後もよろしくお願いしたいと思っている。

本日は、誠にありがとうございました。